

# 桂・ニュース

KATSURA  
NEWS

## 基本理念

私たちは、患者さんの人権を尊重し、地域に必要な  
基幹的中心的な医療を担当すると共に、さらに高次  
の医療に対応できるよう努力します。

社会福祉法人 京都社会事業財団 京都桂病院

10  
月  
号

NO. 211  
2013・10・1  
毎月1回・1日発行  
〒615-8256 京都市  
西京区山田平尾町17  
TEL.075-391-5811(代)

編集：広報課  
印刷：(有)アクト

京都桂病院ホームページ

<http://www.katsura.com>



## 心臓血管センター外来の役割

心臓血管センター-内科  
部長

小林 智子



医学・医療の進歩に伴い、各診療科に高い専門性が求められる時代になっています。われわれ、心臓血管センターでも心臓・末梢血管の動脈硬化性疾患専門医チーム、不整脈治療専門医チーム、そして心臓血管外科専門医チームに分かれています。

動脈硬化性疾患でもっとも頻度が多いのは、狭心症や心筋梗塞などの冠動脈（心臓に栄養を供給する血管）硬化症です。典型的な症状は“胸の痛み”ですが、“胸部の違和感・不快感・背部痛・みぞおちの痛み・倦怠感・息切れ”など様々です。安静時心電図のみで診断するのは非常に困難であり、運動負荷心電図や冠動脈CT検査、負荷心筋シンチ検査、カテーテル検査（血管造影検査）などが必要です。2番目に多い末梢動脈疾患は手足の動脈が狭窄、閉塞することにより“歩行時の下肢倦怠感や疼痛”を伴う疾患です。症状は整形外科的な脊椎疾患からくる神経圧迫症状に類似しており、鑑別には手足の血圧を同時に測定するABI検査や血管エコーが有用です。末梢動脈疾患は重症化すると

“冷感・潰瘍（傷ができる）”を合併し、進行すると下肢切断をおこなわざるを得なくなります。これらの動脈硬化性疾患は治療のタイミングが重要であり、早期診断・加療が予後改善につながります。症状が持続する場合、頻回に起きる場合、悪化する場合は緊急を要するため、すぐ受診していただくことをお勧めします。

不整脈疾患では、徐脈（脈が遅くなる）や頻脈（脈が速くなる）による“動悸・息切れ・ふらつき・失神”といった症状以外に、健診で偶然発見されることもあります。不整脈は種類により治療方法が異なるため、きちんと診断することが先決です。“ふらつき・失神”は脳血管・脳神経疾患にも見られる症状であり、鑑別診断が重要です。

心血管疾患の症状は多様であり、救急処置の必要性・確定診断・治療方法決定を迅速に行い、各専門チームが治療を行い、患者さんの“健康で快適な日常生活の継続”をサポートします。

## 京都桂病院 土曜コンサート

今回は、堀音父母の会の協力によりピアノ・ヴァイオリンなどの演奏でお楽しみいただきます。

入院されている患者さんだけでなく、外来へ通院中の方・在宅で療養されている方・そして地域の皆様もぜひご鑑賞ください。

お楽しみに!

日時：11月16日(土) 午後2時～3時

会場：外来棟1階ロビーにて

曲目：◆「魔女の宅急便」のテーマ ほか

※皆さまよくご存知の曲を中心に演奏致します。